

## ジオ AI 研究会(第 4 回) 議事要旨

■日時:令和 8 年 5 月 25 日(月) 16:00~17:00

■場所:中央合同庁舎第 2 号館国土交通省共用会議室 3A・3B/オンライン

■出席委員・オブザーバー:

井上委員、川島委員、河端委員(オンライン)、清田委員、越塚委員(オンライン)、坂下委員、柴崎委員、島崎委員、高瀬委員、日本測量調査技術協会、地理情報システム学会

■議事:

1. 開会
2. 事務局説明  
事務局より説明(資料1~2)
3. 意見交換  
意見交換における主な意見は以下のとおり

【本文全体】

- ・ ジオ AI の記載が「地理空間情報×AI(ジオ AI)」、「ジオ AI(地理空間情報×AI)」、「ジオ AI」の 3 通りで記載されているため、統一した方がよいのではないか。

【人材育成】

- ・ 教育用途では無償で利用できるデータも増えている。取り組み方針には安価に利用できるだけでなく、無償も加えてほしい。

【今後の取組に向けたご意見】

- ・ マルチモーダル AI の中に地理空間モデルが入っているが、LLM が文字情報から推論を行う AI、VLM は視覚情報から推論を行う AI とした時、地理空間モデルの部分には①距離がわかる、②縮尺がわかる、③地図を絵と判断しない、といった特徴を持つ AI が記載されるのではないか。今後の AI 開発の状況に合わせて、こうした点も適宜修正や更新していくとよいのではないか。
- ・ 現在の生成 AI は月額数十ドルで様々なことに対処できる。そのような世界にユーザーが慣れていった中で、「地理空間情報のビジネスに誰がどのようなお金を払うのか」を考える必要がある。
- ・ 事業者も市場にある程度の変化が起きる覚悟を持つ必要があるが、一方で既存の顧客がいる事業を辞めて他事業に振り切ることも難しい。このような時期はガラケーからスマートフォンへの変化が起きた時期とも似ており、その時期は既存の事業を持たない自由な発想と行動が可能な事業者がうまくいった。
- ・ 誰もがジオ AI を利用できることで、一時的には既存の地理空間ビジネスのニーズが下がると想定されるが、本質的にそのアウトプットを理解し、行動変容に繋げる部分は人間の力が必要。

- ・ AIの発展による既存事業へのプレッシャーはあるものの、業種・業界を跨いで連携し、大きなソリューションを作っていける可能性が生まれる点は期待。
- ・ 取組の方向性で記載された各要素をどう具体化するかを検討していく段階となった。例えば、AI-Ready なデータであれば最低要件となる指標や SLA などをどのように整備していくのか、また、事業者を巻き込んだ実証はどこから手を付け、何をゴールとして実施するかなど、引き続き検討が必要。
- ・ AI の世界はスピードが速いため、今日の議論が 1 カ月後には陳腐化してしまうこともある。各段階の取り組みを、スピード感を持って進めることが重要。
- ・ ジオAIが普及することで、GISを理解していなくてもそれなりのアウトプットがでてしまう。そのような社会でどのようなGIS教育が必要か、学会等を通じて検討していくことが重要。
- ・ 生成 AI 等で専門知識がなくてもシステム構築や解析ができる時代にあっては、個々の AI モデルや GIS ツールの体系的な教育より、ジオ AI を用いたユースケースを産官学連携で創出して広く見せることが必要。一方で生成 AI 等は、「これまでにない」地理情報と AI の繋ぎ方の提示は苦手で、両者を熟知した専門家の育成が大学・大学院等に求められる。
- ・ どのようなデータにも必ず一定の曖昧さが含まれるため、AI 側にもその曖昧さが解釈できるようなメタデータ整備を行うことが重要。
- ・ 地理空間情報は従来行政の事業を推進拡大してきた。ジオ AI の活用においても、まずは行政へのサービス提供の中でジオ AI が実社会でも十分に利用できることを示しながら、社会実装を展開していくことになるのではないかと。
- ・ 現在、生成AIのユーザーは様々なツールを利用・比較しているが、GIS ツールは予算の都合上おそらく単一のツールを使用している。今後ジオ AI を通じて複数の GIS ツールを利用できるようになると、新しい用途・チャンスが開けてくる可能性もある。
- ・ 近年スタートアップのエグジットが難しくなっている。その中でPEファンドが事業会社とスタートアップを合流させ、大企業の中でスタートアップの技術を使う事例が流行している。日本はM&Aのマーケットが小さいため、ジオAIの推進のためにはこのような出口戦略も含めて検討が必要である。

#### 【その他】

- ・ 本中間整理案については本日の議論を踏まえて修正のうえ、座長一任として最終確認を行い公表する。